

この人に達 会いました

和花の会

代表
塩谷 菊栄 さん

湯沢駅のコンコースに26年間生花を飾り続けている和花の会の皆様にお話を伺います。

この度は緑綬褒章の受章おめでとうございます。代表の塩谷菊栄さんから会員の皆様をご紹介させていただきます。

メンバーは七人の方々です。

- 高橋 徳子 さん
- 高橋 純子 さん
- 釦持 信子 さん
- 平山寿美子 さん

角谷 幸子 さん
山本クニ子 さん

これまでの活動の経緯や御苦労など、エピソードをお聞かせください。



左上から 角谷さん、山本さん、平山さん、釦持さん
左下から 高橋(純)さん、塩谷さん、高橋(徳)さん

「和花の会」は故田村喜世江社中(池坊)師匠と弟子一六名で昭和六〇年に発足しました。越後湯沢駅が新幹線停車する駅になったので、「駅にお花でも活けましょうか。それは『見えるお花』でなく、『見られるお花』に致しますようね」と

いう田村先生のお声掛けで始まりました。

先生の優しいお気持ちを感じて頂けると思っています。

先生は平成二年病魔に勝てずお亡くなりになりましたが、酸素マスクをつけながらも、私の手を握り「駅のお花を続けてね」と言われました。師の教えを胸に、現在は七名になりましたが力を合わせ一週間交替で今日まで続けています。

この活動が続けられなかったのは家族の協力があったからであり、紙面をお借りして家族の皆様のご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

「緑綬褒章」の受章…国民として大変名誉なことですね。

この度の受章に会員一同、喜びと同時に身の引き締まる思いで御座います。会員一同、健康に留意し仲よく今後もこの活動を続けてまいりたいと思えます。

最後に、湯沢町民の皆様もとても喜んでおります。ひと言メッセージを…。



いま、雪国観光圏推進協議会(三県七市町村で構成)で新しい観光地域づくりが進められています。私どものささやかな活動が、この地域づくりの一助にでもなりましたらこの上ない喜びでございます。これまでの活動に對しまして湯沢駅の皆様始め町民の皆様から温かく見守って頂きましたことにお礼を申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

★インタビューを終えて

先代の先生のご遺志を大切に、静かに、奥ゆかしく、活動を続けていらした事に驚き、感動しました。この度の受章を心からお慶び申し上げます。

宮田眞理子
岸野 雅人

編集 後記

絆

「きずな」

「人々と豊かな自然」

山々の緑が鮮やかさを増し、人も自然も活気あふれる季節となりました。湯沢町は上信越高原国立公園や清津峡等、今なお手付かずの素晴らしい自然が残っており、そこに広がるブナの森や高山植物、清流景観は大きな感動と安らぎを与える「いやし」の空間として、大きな期待が寄せられています。

これから夏に向かって各地域でいろいろなイベントが計画されています。これらのイベントを充実したものにするには、もつと地域間の交流をはかり、総合的に考えていく必要があります。

例えば、各地域の食材を活かした伝統ある料理と、自然の美しさを楽しめる地域マップなどを作りお客様にご案内するなど、また、若者が希望を抱ける湯沢になるように、みんなで地域観光再発見をしていきましょう。

広報委員 関 忠夫

広報委員会

委員長 角谷 勉

副委員長 白井孝雄

岸野雅人・高橋綾夫・関 忠夫・宮田眞理子

編集

湯沢町議会

広報常任委員会